

略歴書

当麻 純一（とうま じゅんいち）

（株）電力計算センター 代表取締役社長、博士（工学）

【専攻分野】 地盤耐震、電力土木

【本会活動】

理事・副会長（総務・会計・会員）：2012/5～2014/5
公益社団法人化推進委員会 委員長：2012/5～2014/5
将来構想委員会 委員長：2012/5～2014/5

【略歴】

1979年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻
博士課程（前期）修了
1979年 （財）電力中央研究所入所（地盤耐震部）
（1985年～1986年 コロンビア大学客員研究員）
2001年 同（地盤耐震部長）
2004年 同（地球工学研究所副所長）
2005年 同（地球工学研究所長）
2010年 同（知的財産センター所長）
2014年 （株）電力計算センター常務取締役
2015年 同 代表取締役社長
現在に至る



2015/05/22 総会時

【委員会活動(直近5年間)】

- ・土木学会 地震工学委員会 委員長(2009/6～2011/6)
- ・土木学会 原子力土木委員会 委員長 (2011/6～2013/6)
- ・土木学会 東日本大震災特別委員会 委員 (2011/4～2012/6)
- ・同 津波推計・減災検討委員会 委員兼幹事 (2011/8～2012/6)
- ・同 東日本大震災フォローアップ委員会 委員 (2012/6～2013/6)
- ・同 原子力安全土木技術特定テーマ委員会 委員長 (2011/10～2013/6)
- ・文部科学省 独立行政法人評価委員会 臨時委員 (2005/4～2014/5)
- ・我孫子市 都市計画審議会 委員 会長職務代行(2009/12～2015/12)
- ・我孫子市 液状化対策検討委員会 副委員長 (2012/12～2014/11)

【著書および主要論文(代表的なもの10編以内)】

- ・「電力施設地下構造物の設計と施工」電力土木技術協会(1986) 共著
- ・「動的解析と耐震設計」土木学会編 技報堂出版 (1989) 共著
- ・「パイプライン(新体系土木工学)」土木学会編 技報堂出版(1991) 共著
- ・「エネルギー技術者のための地盤・耐震学」丸善 (1999) 共著
- ・埋込みのある剛体基礎の動的応答に関する起振実験と地震観測、土木学会論文集 No.446/I-19(1992)
- ・埋込み剛体基礎の非線形応答に関する模型振動実験とその解析、土木学会論文集 No.450/I-20 (1992)

【所信】

私は当会の創立以来の会員で、他の多くの会員の方と同様に、出身母体とも言うべき他の学会（主に土木学会です）との二足のわらじでの活動をしてまいりました。一口に学会活動と言っても、学術深化を目的としての調査研究や発表活動もあれば、指針やマニュアル策定のような社会的ミッションを持った委員会活動もあれば、複数の委員会をマネジメントする活動もあれば、さまざまです。幸いなことに私は、これまでの40年近い諸学会活動を通じてこれら多くの経験をすることができました。

若い当初はあまり意識していなかったことですが、こうしたあらゆる活動にはお金が必要であり、それを拠出してくださる方面の期待に応える責務というものが伴うものです。これを今の当会の状況に照らせば、事業費収入の過半が会員会費によって賄われていることから、学会の諸活動が会員に役立つものとして還元されることがまず肝心です。これについては、これまでも情報発信（学会誌、論文集、ニューズレターなど）や行事の充実が図られてきました。今後とも引き続いて工夫がなされていくべきでしょう。

さらには、当法人は2013年5月1日に公益認定を受けたことから、活動が公益に資しているかどうかの厳しい社会の目があります。もとより、当会の活動は私益目的ではないですが、公益の社団法人として存続しているためには、その活動が「求められているか」と受益の機会が「開かれているか」という2点が重要です。当たり前のようなことですが、この公益要件のエビデンスをきちんと整えていることが、当会の存続にとって不可欠なのです。

監事として選出されたならば、当会の活動が会員に必要十分に還元されているか、そして公益要件を確実に満たしているか、の二点を重視して業務監査と会計監査にあたり、当会の健全な発展に尽くします。

以上